



学芸員が思いのままにつづる、ミュージアムのこと、日々の仕事のこと。展示に直接携わる学芸員の言葉の中から、ミュージアムをもっと楽しむヒントを見つけてください。

CHAPTER 8

地底の森ミュージアム

学芸員 鈴木 英梨さん



地底の森ミュージアムでの私の仕事は、お客様への展示解説や市民文化財研究員の活動、企画展の準備などです。広報も担当していますが、その中のひとつとして、「エフェムたいはく」内で「ほっとしてーしょん地底の森だより」という番組を放送しています。ミュージアム施設の広報としては、ちょっと珍しいでしょうか。ラジオの中では、地底の森ミュージアムや兄弟館である縄文の森広場の展示やイベントの情報を中心にお知らせしていますが、時々、他の施設の方をゲストにお呼びすることもあります。ミュージアムの「中の人」である私ですが、様々な施設の展示のみどころを学芸員さんからお聞きしている時は、私もお客様の気持ちになってワクワクしてしまいます。



周波数78.9MHz
隔週金曜日14時台に
オンエア

ラジオの向こうで聞いていただいている人のことを想像しながらお話するのはとても難しいですが、普段の展示解説という仕事では味わえない不思議な感覚です。好きな楽曲をかけながら、地底の森ミュージアムの日々のどんな様子をお伝えしようかな、と考える時間が、館内での仕事の合間の、ちょっとした「ひと休み」になっています。

直近のおススメ
イベント情報

9月23日(月・祝)特別企画展「センダイ 遺跡の記憶」
9月15日(日)13:00-15:00
特別企画展関連イベント「つくってみよう きみだけの宝もの」



SMMAとは

知的情報資源である仙台・宮城地域のさまざまな博物館が協働することで、地域にとってより有益な機能を獲得していくための共同事業体です。各館の学芸員や専門職員が持つ知識やノウハウを蓄積し、分野を横断した連携イベント、学校教育への協力や地域で活動する人材の育成支援、観光資源の開発など、単館では実現困難な新たな価値の創出を行い、地域のニーズに合った新時代のミュージアムとなることを目指します。

WEBサイト 見験楽学 仙台・宮城ミュージアム情報局

SMMA参加館の学芸員をはじめ現場スタッフによるとっておきの情報や、地域のミュージアムならではの情報をお伝えします。地元のみならず、旅行で訪れた方々にもお役に立ち、楽しみながら発見や体験をしていただけるウェブサイトです。



発行・問い合わせ先: 仙台・宮城ミュージアムアライアンス事務局 仙台市青葉区春日町2-1(せんだいメディアテーク内)
電話: 022-713-4483 ファックス: 022-713-4482 電子メール: office@smt.city.sendai.jp ウェブサイト: https://www.smma.jp
編集/清水 テナツ デザイン/ANTWORKS イラスト/よしだみさこ 写真/長崎由幹 発行日/2019年8月30日 掲載の記事・情報は発行日の段階のもので、この紙はリサイクルできます。

2019 秋号 旬の見験楽学便

ミュージアムの
仕事図鑑

「なおす」編

仙台
ミュージアム
情報誌
SENDAI MUSEUM INFORMATION MAGAZINE
SHUN NO KEN KEN GAKU GAKU BIN



ミュージアム de ブレイクタイム

SPOT 仙台市縄文の森広場



国 仙台市太白区山田上ノ台町10-1
☎ 022-307-5665
開 9:00-16:45(入館は16:15まで)
休 月曜(祝日の場合は翌平日)、第4木曜(12月を除く)
料 一般200円、高校生150円、小・中学生100円

約4000年前の大きな縄文ムラであった山田上ノ台遺跡(やまだうえのだいいせき)を保存し、縄文文化に直に触れて感じることのできる施設です。さまざまな縄文体験に挑戦できます。

開催中のイベント -10月20日(日)「東北の縄文遺跡(1)山形県尾花沢市漆坊遺跡」

縄文ワクワク体験

手を動かしながら、縄文人の心と技を知る—そんな体験ができるのも、縄文の森広場の魅力のひとつ。多彩な体験学習の中から今回は土にまつわるものをご紹介します!

体験学習の受付は9:00-11:30、12:30-15:00。個人や少人数の場合は、予約不要。幼児から参加できるメニューもあります。約1~2ヶ月間じっくり乾燥させ、焼成してからのお渡しとなります(作成日にはお持ち帰りにできませんので、ご注意ください)。材料費には焼成代が含まれています。

手形・足形



所要時間: 30分~
材料費: 100円

土笛・土面



所要時間: 45分~ 材料費: 100円

土偶



所要時間: 45分~
材料費: 100円

縄文土器



所要時間: ミニ:60分~ 小:90分~ 大:120分~ 特大:180分~
材料費: ミニ:100円 小:200円 大:400円 特大:800円
※特大は午前中のみ受付

手でこね、火で焼き上げる—縄文の森広場 近隣のおすすめ店

ピッツェリア ダ・プリオ

約450°Cの薪窯であつという間に焼き上げる、熱々で香ばしい本格ナポリピッツァ。テイクアウトも可
国 仙台市太白区山田上ノ台町1-9 ☎ 022-243-2180
開 (ランチ)11:30-14:00 (ディナー)17:30-20:00 火曜+不定休



左:チコリ(モッツァレラ・リコッタ・豚バラフリット・黒コショウ) 1700円
右:マルゲリータ(モッツァレラ・パルミタノ) 1300円
ランチセットは、ミニサラダとドリンク付き

天然酵母パン オフルニル デュ ボワ

北海道産小麦、伊達の旨塩など厳選したシンプルな素材と自家製天然酵母で焼き上げるハード系パン
国 仙台市太白区鉤取本町1-17-21 ☎ 022-399-6588
開 11:00-17:00(なくなり次第終了) 火曜・水曜



上:田舎パン(ハーフ) 450円
下左:ひまわりの種パン200円
下右:チョコとヘーゼルナッツ330円



きむら ありか
木村 有香
(1900-1996)



明治33(1900)年石川県生まれ。ヤナギ科植物を専門とした植物分類学者。旧制高等学校在学中に原始的な形態で生きた化石といわれるクモ(のちに「キムラグモ」と命名された)を発見したことで知られている。ヤナギは雑種が多く、分類がやっかいであることを知り、ヤナギ研究の先駆者として生涯、研究を続けた。東北大学植物園の初代園長。

SMMA参加館ゆかりの人物にせまります。人を知って、收藏品をもっと身近に、もっと楽しく。

大学時代から95歳まで
ヤナギを研究し続けた
生粋の研究者

ヤナギは春から夏にかけて葉の形や大きさも変わり、雄雌で異なる性質があり、雑種も多く、研究者の間でも「ヤナギというやつは実にイヤなものだ」と語られていました。それを聞いた木村有香は「よし、そんなに難しいものなら、やってやろう」と奮起し、九州から北海道まで全国のヤナギに番号をつけ、同じ個体から季節ごとに標本をつくり続けることで研究を重ねました。木村の東北大学定年退官後の翌年1964年に、木村が蒐集したヤナギ科植物の標本や資料を収納する「ヤナギ館」が植物園内に建設され、その研究は、死去の前年まで続けました。



木村有香が採集した「センダイヤナギ」の標本



現在3350㎡のヤナギ園に約600株、500㎡の鉢場に約550鉢のヤナギが栽培されている

世界に類のない
ヤナギコレクション

ヤナギ園には、木村の蒐集した世界のヤナギ科植物の標本木の充実したコレクションが栽培されています。一本一本、丁寧に学名が付された木々の間を歩くと、まるで植物図鑑の中に迷い込んだかのような様子。現在も国内外からの積極的な蒐集が続けられ、世界に類のないヤナギコレクションが日々、育まれています。

ここでもっと知る!

東北大学植物園
国 仙台市青葉区川内12-2 ☎ 022-795-6760
開 9:00-17:00(入場は16:00まで)
休 月曜(祝日の場合は翌平日) ※12月1日-春分の日の前日までは冬期休業
料 大人230円、小・中学生110円

これからのイベント

11月3日(日・文化の日)「紅葉の賀」

ミュージアムでは作品や文化財などを「なおす」ことも大切な仕事のひとつです。でも、そもそも「なおす」ってどんなこと？ 辞書には「修理する」「整える」「変換する」などの意味が並びますが、ミュージアムの「なおす」には、もっとたくさんのことが含まれているようです。学芸員へのインタビューを通して、ミュージアムがとりくむ「なおす」をご紹介します！



ナラティブ（物語）の修復

震災が加速させたこと

東日本大震災以降、メディアテークで継続的に考えてきたことのひとつに「ナラティブ（物語性）」があります。私たちは災害による破壊や喪失を経験し、過去の連続性が絶たれ、忘却は加速度的に進んでいるようにも思えます。だからこそ、「なおす」を主題に制作する青野文昭さんの個展を通じて「ナラティブの修復」を試みたいと思っています。

せんだいメディアテーク
学芸員 清水建人さん

足下に眠る歴史、死者たちの声など、封じ込められてきたものを解放し、物語る機会になればと思います



「コンチハ技術シテノ美術」展示風景（2017年、せんだいメディアテーク）
写真撮影：小岩 勉



「コンサベーションピース ここからもうこうへ」展示風景（2017年、武蔵野市立吉祥寺美術館）
写真撮影：山中慎太郎、画像提供：武蔵野市立吉祥寺美術館

息の長い抵抗から、関係性の回復へ

青野さんは1996年から「なおす」を主題に制作していますが、壊れたものの機能を修復・復活させようとはしていません。では、何をなおそうとしているのか？ 一言で表すと「もの」と人間との関係性です。ものは基本的には、役に立たなくなると捨てられますが、ものを「役に立つ・立たない」という尺度ではかるのをやめれば、別の面が見えてきます。初期作品は、ものが大量廃棄される現代文明への「ささやかふうな抵抗」とも捉えられ、批判精神があります。ですが、攻撃的に告発するのではなく、「ケア」のような手つきで、息の長い抵抗を試みてきたようにも思えます。

ところが、津波の凄まじいエネルギーは、家財道具や車などを一瞬にして瓦礫と化しました。さすがに、青野さんも手に負えないと感じたと思いますが、震災後の作品には人型が多く登場し、ものというスケールを超え、住空間や路地のような風景にまでひろがりを見せています。それらは、「地域と人間との関係性」をも、紡ぎ出そうとしているように思えるのです。

「青野文昭展
もの、ぬむり、越路山、こえ」
2019年11月2日（土）～2020年1月12日（日）
※11/28、12/29～1/3は休館
11:00～20:00（入場は19:30まで）
一般500円（高校生以下無料）

せんだいメディアテーク

〒980-0821 仙台市青葉区春日町2-1
☎022-713-4483 9:00～22:00（施設により異なる）
休 第4木曜（12月を除く）

文化財レスキューと復興キュレーション

文化財レスキューから 浮かび上がった問い

東日本大震災と津波により沿岸部のミュージアムは大きな被害を受け、東北学院大学は大学博物館を窓口として被災資料を受け入れる「一時保管施設」になりました。牡鹿半島の「石巻市鮎川収蔵庫」から文化財を救出し、本学の学生たちを中心に脱塩作業、二酸化炭素殺虫処理、修復、民俗資料の台帳作成にあたりました。しかし、その過程で「文化財はなぜ、大事なのか？」「なぜ、なおしたり、残したりする必要があるのか？」という根本的な問いが浮かんできたのです。

東北学院大学
教授
加藤幸治さん

壊れていないものでも「なおす」必要があるかもしれません。それは、文化財の価値を都度「問いなおす」という意味です



「石巻市鮎川収蔵庫」から救出した文化財は、4トラック8台分



牡鹿公民館の跡地で開催した展示。地元住民の方にお話を聞く

すくう→のこす→ つなげる→かたりあう

文化財の価値は永久不変のものと思いがちですが、じつは、常に揺れ動いています。特に生活に根ざした民具などの民俗資料は、生活様式の変遷により忘れられたり、再評価されたりする。救出した文化財が今後、「地域にとってどのように意義深いものになっていくのか？」を問うたとき、「すくう」「のこす」の先に、「つなげる」「かたりあう」のプロセスが見えてきました。「私たちの暮らしはどのように形づくられ、どこへ向かっていくのか？」。災害からの復興を考えると、アイデンティティの確認や肯定、人々との融和や共感を育む活動は不可欠です。その結果、文化財の価値が発見され、活き活きと継承されていくのだと思います。

加藤幸治 著
『復興キュレーション
語りのおナーシップで作り伝える
“くじらまち”』（2017年、社会評論社）

治療とケア

2017年10月、東松島沖の定置網にスナメリがかかっていると漁師さんから連絡が入り、すぐに駆けつけました。1才未満で、身体に傷があり呼吸も浅かった。自然界でそのままでは生きていけないだろうと判断し、当館で保護することになりました。治療プールで、感染症の予防や治療などにあたる日々。最初の頃は、水面にとどまりエサも食べず、じっとしていました。それが病気によるものなのか、精神的な不安からくるものなのか、わかりませんが、両方の可能性を考えながら、治療と飼育にとりくみました。つまり、水族館の「なおす」には、病気がケガの「治療」と精神的な「ケア」の両方があるんです。



同館学芸員
伊藤 崇さん



回復したスナメリは、マダイにいたずらしたり、イワシを捕食したり、好奇心も旺盛です



大水槽「いのちきらめくうみ」で元気に泳ぐスナメリ



治療プールの床は上下に動き、水深を30cmから3mまで調整できる

仙台市宮城野区中野4-6 ☎022-355-2222
9:00～18:30
(9/7、14、15、21、22、28は21:00まで。入館は各30分前まで)
大人2100円、中・高校生1600円、小学生1100円、
幼児（4歳以上）600円、シニア（65歳以上）1600円

太古をたどり、現代によみがえらせる

富沢遺跡の発掘でみつかった樹木、花粉、シカのフンなどを分析調査した結果、2万年前の仙台あたりは、現代の北海道北部からサハリン南部の気候に近いことがわかりました。冷涼な気候のもとで湿地が広がる環境を具体的な姿として伝えるために、野外展示「氷河期の森」は復元されました。年に2回、専門家の指導のもとに、氷河期にふさわしい木々や草花が育つ森になるよう手入れを続けています。



地底の森ミュージアム
学芸員 鈴木英梨さん



▲遺跡を大地から切り離さずそのままの姿で保存
写真：仙台市教育委員会

▼地下展示「地底の森」。樹木の根や土の乾燥を防ぐ薬品を独自に開発。
ガラスで覆わずに実物を観察できる



野外展示「氷河期の森」を歩くと、2万年前の風景が想像できるといいます
（前職員の長田麻里さん）

仙台市太白区長町南4-3-1 ☎022-246-9153
9:00～16:45（入館は16:15まで）
休 月曜（祝日の場合は翌平日）、1月～11月の第4木曜（休日の場合は開館）
☎一般460円、高校生230円、小・中学生110円

場所の役割や意味を見つめなおす

当館の建物は、明治7（1874）年に「旧陸軍歩兵第四連隊」の兵舎として建造され、終戦まで70年間使用され、昭和54（1979）年に仙台市歴史民俗資料館になりました。この地から戦地へ兵士を送り込むために造営された場所が、役割や意味を見つめなおし、残された資料や市民の方々から寄せられた資料とともに戦争の記憶を伝えています。平成は戦争のない時代でしたが、世界に目を向ければ現在でも戦争や紛争は絶えません。そこに暮らす人々の困窮や悲惨さは続いています。この地の歴史を見つめなおすことで、戦争について感じ、考える機会になればと思います。



仙台市歴史民俗資料館
学芸室長 畑井洋樹さん

企画展では仙台地方を中心に戦争と庶民のかかわりについてご紹介いたします

「戦争と庶民のくらし5」
～2019年11月10日（日）
9:00～16:45
（入館は16:15まで）



館内に兵舎として使用されていた一室を復元。戦中の様子を今に伝える



仙台市歴史民俗資料館



国旗に記された爆撃の記録

仙台市歴史民俗資料館
仙台市宮城野区五輪1-3-7 ☎022-295-3956
9:00～16:45（入館は16:15まで）
休 月曜（祝日の場合は翌平日）、第4木曜
☎一般・大学生240円、高校生180円、小・中学生120円